

《Ⅱ 教育の内容》

【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成22年度に学科改組等を行った場合は、平成21年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

〔こども学科（幼保コース）教育課程〕

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位						教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	単位数	必修			選択	自由	専任	兼任	兼任		
						卒業	幼免	保育							
基礎科目	フレッシュマン・セミナー		○		1	○	○	○			○			77 (4)	
	日本語表現Ⅰ		○		1	○	○	○			○			77 (2)	
	ソフォミア・セミナー		○		1	○	○	○			○			101 (4)	
	日本語表現Ⅱ		○		1	○	○	○			○			22年度開講科目	
	英語コミュニケーション		○		2	○	○	○					○	77 (2)	
	コンピュータ		○		2	○	○	○					○	80 (2)	
	基礎体育（講義）	○			1	○	○	○			○			78 (4)	
	基礎体育（実技）			○	1	○	○	○			○			78 (4)	
教養科目	児童文学	○			2				○				○	39 (2)	
	歴史	○			2				○				○	34 (2)	
	美術	○			2				○				○	29 (2)	
	心理学	○			2				○		○			57 (2)	
	社会学	○			2				○		○			18 (2)	
	日本国憲法	○			2		○		○				○	86 (2)	
	自然科学概論	○			2				○				○	46 (2)	
	生涯学習概論	○			2				○		○			28 (2)	
	児童英語A		○		2				○				○	48 (1)	
児童英語B		○		2				○				○	7 (1)		
教科に関する科目	国語	○			2				○		○			4 (1)	
	算数	○			2				○		○			22 (1)	
	生活	○			2				○		○			17 (1)	
	音楽		○		2				○		○			0 (0)	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位						教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	単位数	必修			選択	自由	専任	兼任	兼任		
						卒業	幼免	保育							
教科に関する科目	器楽Ⅰ		○		2		○	○			○		○	77 (8)	
	器楽Ⅱ		○		2				○		○		○	84 (8)	
	声楽		○		2				○				○	37 (2)	
	アンサンブルA		○		1				○		○			21 (1)	
	アンサンブルB		○		1				○		○			28 (1)	
	図工		○		2		○	○					○	86 (2)	
	体育		○		2	○	○	○			○			81 (2)	
	幼児体育		○		2				○		○			21 (2)	
教職に関する科目	教師・保育者論	○			2		○				○			99 (3)	
	初等教育原理	○			2	○	○	○			○			81 (2)	
	保育原理Ⅰ	○			4			○			○			76 (2)	
	教育心理学	○			2		○	○			○			101 (2)	
	発達心理学	○			2			○			○			89 (2)	
	障害児教育・保育		○		2	○	○	○			○			100 (2)	
	教育法規	○			2				○		○			2 (1)	
	学級経営	○			2				○		○			9 (1)	
	教育・保育方法論		○		2		○	○			○			85 (2)	
	教育技術		○		2				○		○			11 (1)	
	保育内容総論		○		2		○	○			○			82 (2)	
	保育内容・健康		○		2		○	○					○	82 (2)	
	保育内容・人間関係		○		2		○	○			○			93 (2)	
	保育内容・環境		○		2		○	○					○	78 (2)	
	保育内容・言葉		○		2		○	○			○			93 (2)	
	保育内容・表現Ⅰ		○		2		○	○					○	84 (2)	
	保育内容・表現Ⅱ		○		2		○	○			○			76 (2)	
	保育内容・表現Ⅲ		○		2				○		○			30 (2)	
	教育相談		○		2		○	○			○			101 (3)	
	乳幼児心理学	○			2		○	○			○			82 (2)	
教育実習指導			○	1		○				○			77 (2)		
教育実習			○	4		○				○			93		
保育・教職実践演習 (幼稚園)		○		2	○	○	○						23年度開講科目		
(総合演習)		○		(2)	○	○	○			○			101 (3)		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位						教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	単位数	必修			選択	自由	専任	兼任	兼任		
						卒業	幼免	保育							
保育士科目	社会福祉論	○			2			○			○			81 (2)	
	社会福祉援助技術		○		2			○			○			85 (2)	
	児童福祉Ⅰ	○			2			○			○			82 (2)	
	養護原理	○			2			○			○			78 (2)	
	小児保健Ⅰ	○			2			○					○	85 (2)	
	小児保健Ⅱ	○			2			○					○	79 (2)	
	小児保健実習			○	1			○					○	85 (2)	
	小児栄養		○		2			○					○	82 (2)	
	精神保健	○			2			○			○			86 (2)	
	家族援助論	○			2			○			○			84 (2)	
	乳児保育Ⅰ		○		2			○			○			79 (2)	
	養護内容		○		2			○			○			88 (2)	
	保育実習指導			○	1			○			○			77 (2)	
	保育所実習Ⅰ			○	2			○			○			84	
	施設実習Ⅰ			○	2			○			○			84	
	保育原理Ⅱ	○			2				○		○			7 (1)	
	児童福祉Ⅱ	○			2				○					4 (1)	不開講
	臨床心理学	○			2				○		○			7 (1)	
乳児保育Ⅱ		○		2				○		○			61 (1)		
保育所実習Ⅱ			○	2			○選必			○			60		
施設実習Ⅱ			○	2			○選必			○			24		

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

本学においては、卒業資格を取得するために要する必要最低単位数は62単位と定めている。その内訳は、基礎科目10単位、教養科目6単位以上、そして専門科目34単位以上に分かれている。(学則第31条)

教養科目には、「児童文学」、「歴史」、「美術」、「心理学」、「社会学」、「日本国憲法」、「自然科学概論」、「生涯学習概論」「児童英語A・児童英語B」の10科目20単位が開講されており、人文・社会・自然科学の各分野から科目を用意している。教養科目はすべて選択制となっており、多くの科目は前期と後期に開講され、原則としてどの時間の授業を履修し

でもよいことにして、科目選択の幅を拡げるよう配慮している。幼稚園教諭及び保育士の免許・資格を同時に取得するためには、本学では95単位以上の単位取得を課しており、学生が多くの教養科目を受講するには負担が大きいことも事実として存在している。

専門科目は、教員免許や保育士資格に必要な所定の必修科目と選択必修科目とに分けられているが、免許、資格に関する専門科目は、それぞれ文部科学省、厚生労働省で定める必修科目及び選択必修科目として指定されており、必要な専門科目は十分に準備されている。さらに、保育士資格に必要な科目のうち、演習科目や実技、実習科目は授業クラスを50人以下に押さえ、ピアノの授業（演習）は10人以下で実施するなど、可能な限り授業は少人数で実施している。

本学の専任教員は、教育職員免許法施行規則や保育士養成課程規則に則り、それぞれ専任教員が配置されている。

幼稚園課程に関しては、教職に関する科目について①教職の意義等に関する科目、②教育の基礎理論に関する科目、③教育課程及び指導法に関する科目、④生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目に少なくとも一人以上の専任教員の配置があり、教科に関わる科目では、①国語、②算数、③生活、④体育等の各科目に専任教員が配置されている。

また、保育士養成課程では、①保育の本質・目的の理解に関する科目、②保育の対象の理解に関する科目、③保育の内容・方法の理解に関する科目、④基礎技能等にそれぞれ一人以上の専任教員が配置されており、幼稚園教諭及び保育士の各養成課程に必要な専任教員は充足されている。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得が可能な「幼稚園・保育コース」があり、教員養成課程または保育士養成課程に定める必要な科目が用意されている。希望により幼稚園教諭と保育士資格の二つの免許・資格が取得可能となっている。

幼児体育指導者検定二級試験は、2年次開講科目「幼児体育」と関連させながら授業時間外にも指導を行っている。本検定試験は本学も試験会場に指定されており学生にとっては受験しやすい環境になっている。

小学校教諭二種免許状及び学校図書館司書教諭は、平成21年度卒業生まで取得が可能であった。

学科名	取得可能な免許・資格	備考
こども学科	幼稚園教諭二種免許状	
	保育士資格	
	幼児体育指導者検定二級	
	小学校教諭二種免許状	21年度卒業生まで取得可
	学校図書館司書教諭	21年度卒業生まで取得可
	日本語検定2級・3級・4級	

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等どのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

文部科学省、厚生労働省の規定する幼稚園教諭の免許及び保育士の資格を取得するために必要な科目は必修と選択必修科目が指定されており、そのバランスは本学独自に改変することはできない。幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得するための22年度入学生の必修科目、選択必修科目、選択科目の割合は、必修46科目(62.2%)、選択必修10科目(13.5%)、選択18科目(24.3%)となっている。同一科目を2コマ開設したり、前期と後期に開講するなど、学生の選択の幅を拓げるよう配慮している。

科目の選択方法については、履修オリエンテーションを前期と後期2回実施し、「学生便覧」の他に「免許・保育士資格取得所要単位」科目一覧の印刷物を元に修得が必要な科目単位について説明している。また、基礎科目の「フレッシュマン・セミナー」、「ソフモア・セミナー」担当教員からも履修についてアドバイスをを行っている。

・参考資料： 「免許・保育士資格取得所要単位」

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

・卒業要件単位及び免許・資格に必要な単位数

区 分	基礎 (必修)	教養 (選択)	専門 (教科) (必修・選択)	専門 (教職) (必修・選択)	保育士 (必修・選 択)	選択 (教養・専 門)	計
卒業所要最低単位	10	6	34			12	62
幼稚園教諭二種免許	10	6	6	35		10	67
保育士資格	10	6	6	34	32		88
保育士 + 幼稚園二種	10	6	6	41	32		95

履修オリエンテーションの説明時、成績表の配布及び履修届科目の確認時に必要な要件単位について学生に説明し、周知に努めている。

・学納金

費 目	前期納入	後期納入	一括納入
入 学 金	284,000 円		
授 業 料	310,500 円	310,500 円	621,000 円
コンピュータ利用料	1年次 45,000 円 2年次 30,000 円		1年次 45,000 円 2年次 30,000 円
施設・維持費	110,000 円	110,000 円	220,000 円
図書・研究刊行費	8,000 円		8,000 円
厚生費（暖房費含）	10,000 円		10,000 円

募集要項、学生便覧に記載されているほか、入学手続時、4月及び9月初めに、保護者に対する文書で、学費納入について案内している。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下「学科長等」という）が記述して下さい。

教育課程の見直し、改善については、こども学科内に「カリキュラム検討会議」を設置し、学科長、小幼コース主任、幼保コース主任、教員、事務長、事務系職員等を構成員として、当該年度の教育課程の内容等について意見を交換し、改善を図っている。

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

授業内容については、年度ごとに全授業科目について SYLLABUS を作成し、学生の履修上の参考に資するようにしている。SYLLABUS は前期の授業開始前に全学生に配付され、学年ごとに行われる各期の履修オリエンテーション時に配付される「免許・保育士資格取得所要単位数」一覧とともに、学生の履修届けを提出する際に必須のものとして利用されている。新入生については、入学直後に行われる一泊二日の校外研修にも SYLLABUS を持参させて、学生各自が希望する取得免許、資格に応じた履修届作成の際に利用されている。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

学生の履修態度、学業への意欲等については、各教員が授業の中で観察し、オフィス・アワーなどの個別相談を通して学生の心情等を把握したりしている。本学の学生は、入学時から将来の保育者を目指すという目的が明確であり、多くは十分な学習意欲をもっているが、演習授業も多いため、講義科目での履修態度に問題のある学生も存在する。折に触れて目的的な学生生活を送るよう指導していきたい。

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

授業評価は全ての科目について、年に2回、学期末に「授業評価」として実施されている。最終授業あるいはその数回前までに無記名で記入され、結果は後日、科目担当教員に集計した資料が伝えられる。

調査内容は、①授業への期待、②授業の内容、③知的欲求の満足度、④専門用語の理解度、⑤内容の理解度、⑥教員の熱意、⑦授業の進行度、⑧内容への興味、⑨授業への感想の9項目からなっており、学生の授業に対する理解度や満足度が得られると同時に、教員が授業内容を改善する資料となっている。

平成21年度の調査結果概要は下記のとおりであり、授業内容や教員の授業への取り組み等についての、学生の評価は総じて満足できる内容と評価している。

なお、入学時(4月)および卒業時(2月)における学生生活に対する学生の意識についても、アンケート調査をそれぞれ実施している。

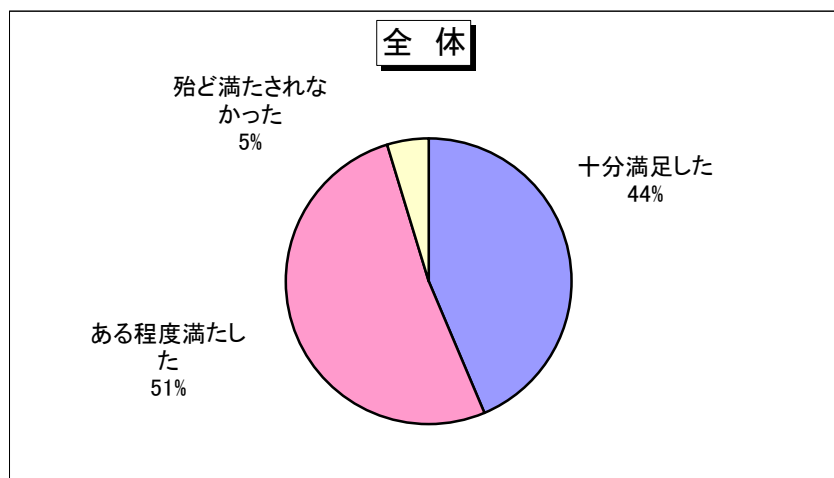
平成 21 年度 学生による授業評価（平成 22 年 2 月実施）

注：数は全授業科目に対する回答区分の合計数を示す。

①授業の内容は知的欲求または向上欲求を十分満たすものであったか。

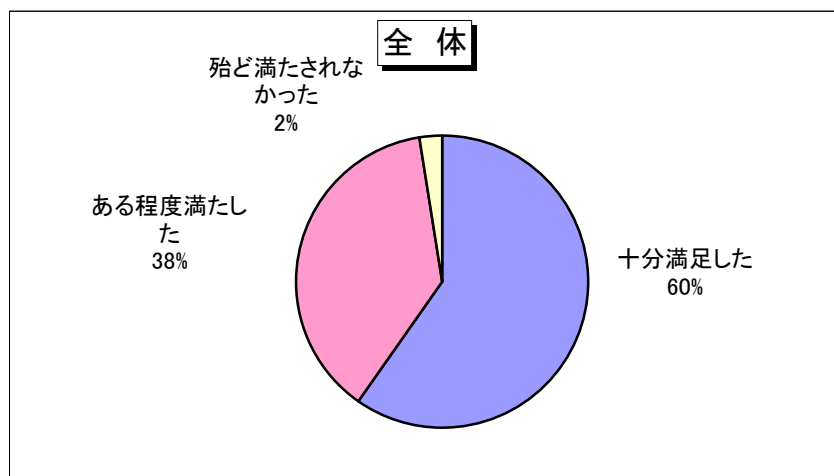
【前期】

回答	1年	2年	全体
十分満足した	475	247	722
ある程度満たした	521	332	853
殆ど満たされなかった	48	30	78



【後期】

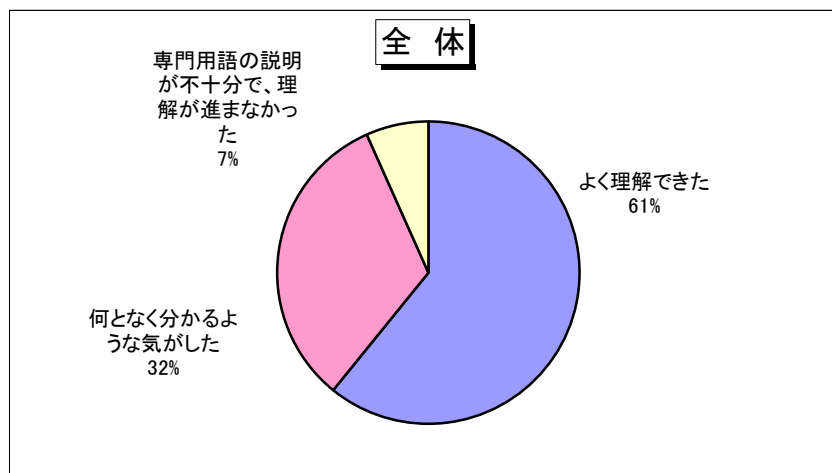
回答	1年	2年	全体
十分満足した	617	415	1,032
ある程度満たした	380	273	653
殆ど満たされなかった	13	28	41



②専門用語が十分な説明がないため、よく理解できなかったことはないか。

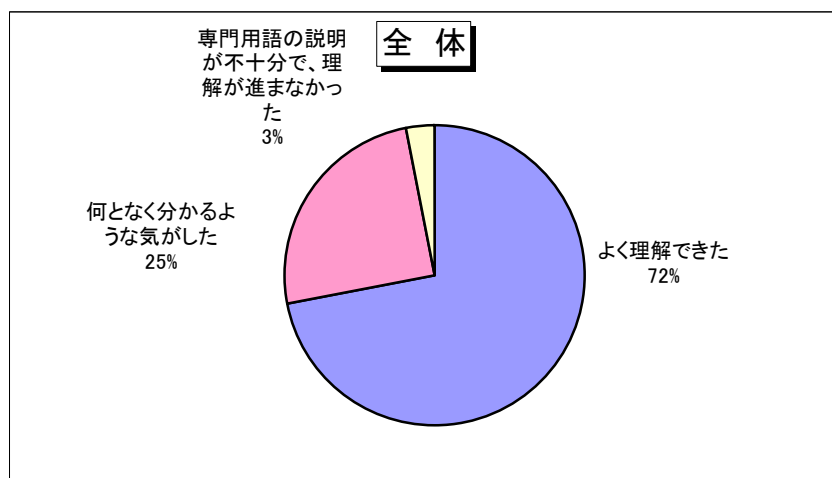
【前期】

回答	1年	2年	全体
よく説明されていたので専門用語の意味内容はよく理解できた	676	332	1,008
あまり説明はされなかったが、専門用語の意味は前後の関係から何となく分かるような気がした	282	253	535
専門用語の説明が不十分でよく意味が判らず、そのために授業内容の理解が進まなかった	88	24	112



【後期】

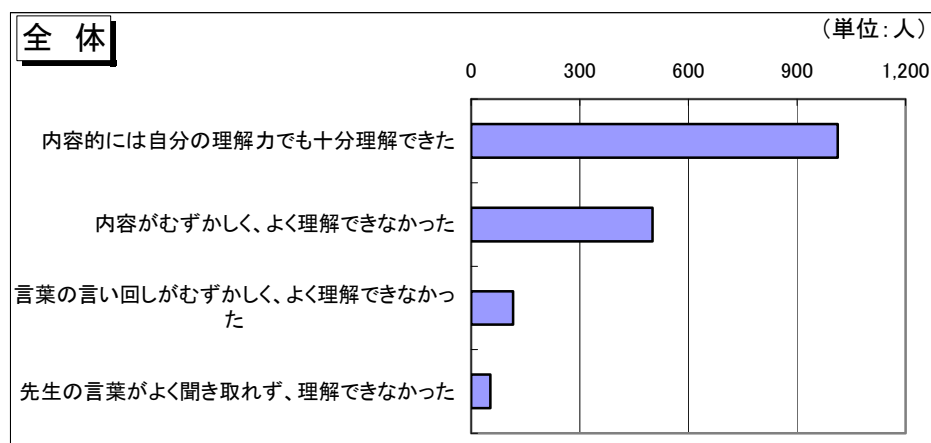
回答	1年	2年	全体
よく説明されていたので専門用語の意味内容はよく理解できた	776	459	1,235
あまり説明はされなかったが、専門用語の意味は前後の関係から何となく分かるような気がした	207	225	432
専門用語の説明が不十分でよく意味が判らず、そのために授業内容の理解が進まなかった	26	26	52



③専門用語の問題は別にして、授業内容がよく理解できなかったことはないか。

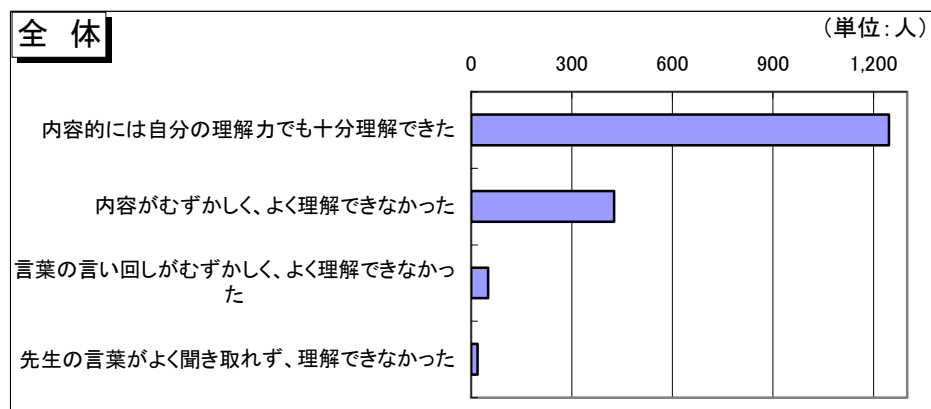
【前期】

回答	1年	2年	全体
内容的には自分の理解力でも十分理解できた	666	346	1,012
内容がむずかしく、よく理解できなかった	278	223	501
言葉の言い回しがむずかしく、よく理解できなかった	83	33	116
先生の言葉がよく聞き取れず、理解できなかった	41	12	53



【後期】

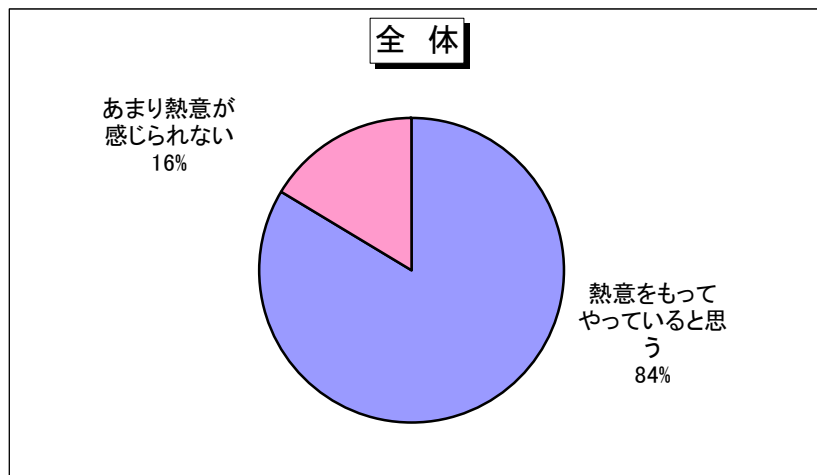
回答	1年	2年	全体
内容的には自分の理解力でも十分理解できた	741	505	1,246
内容がむずかしく、よく理解できなかった	244	182	426
言葉の言い回しがむずかしく、よく理解できなかった	22	29	51
先生の言葉がよく聞き取れず、理解できなかった	16	3	19



④先生はこの授業に熱意をもって当たっていると思うか。

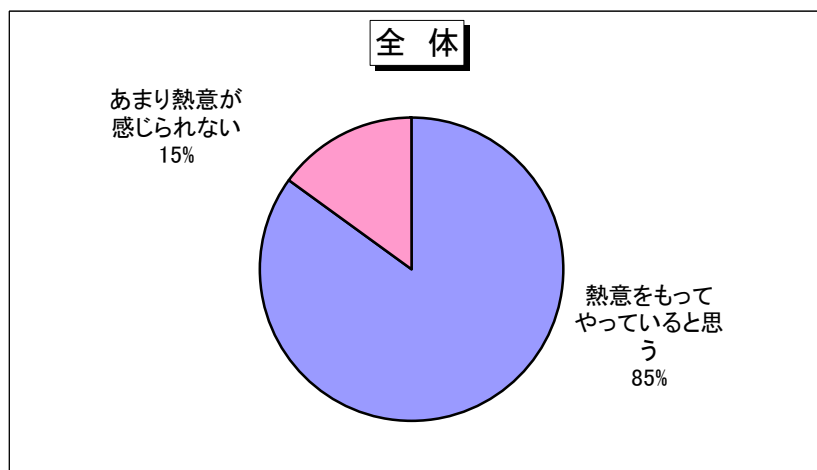
【前期】

回答	1年	2年	全体
熱意をもってやっていると思う	910	438	1,348
あまり熱意が感じられない	108	155	263



【後期】

回答	1年	2年	全体
熱意をもってやっていると思う	874	563	1,437
あまり熱意が感じられない	126	129	255



(2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

時代と社会のニーズに即した質の高い大学教育を実現していくために、FD活動は欠かせないものといえる。本学では学則第28条の2に、「教育内容の改善のための組織的な研修等」が規定されている。現在、FD活動を計画的に推進している。第1回目は、平成21年7月「児童福祉施設と幼稚園教諭・保育士養成校との連携について」の演題で外部講師を招き、第2回目は12月に「少子化だからこそ、今、こども学科」というタイトルで専任教員による研修会を実施した。今後とも、計画的、組織的な研修を推進していく必要がある。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

専任教員間においては、担当教科について共通資料を活用したり、交換授業をしたり、授業内容を公開したりして教員間の意思疎通を図っている。非常勤の教員間の連携については、専任の教員が中心となって共通理解を図っている。

【特記事項について】

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取り組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

習熟度別授業については、「器楽Ⅰ」の授業で実施している。器楽Ⅰはピアノの演奏に関する内容であり、入学前のピアノ練習経験の有無によって、学生の演奏能力に大きな差が見受けられる。そのため、音楽担当の教員が、学生のピアノの習熟度に応じた個別指導を適時実施して技術の向上に向けて努力している。

さらに、進路支援体制の中で、幼稚園や保育所等への就職に関して、希望する学生に対し模擬面接の練習を実施し、学生の対応姿勢・内容の改善を図ることで、学生の支援を推進している。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点が求められることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈添付資料〉 1. 学生便覧等
2. SYLLABUS

- 〈参考資料〉
1. 選択科目の履修について記載している印刷物
「免許・保育士資格取得所要単位」
 2. 学生による授業評価票
 3. F D活動の組織（F D委員会等）についての規程